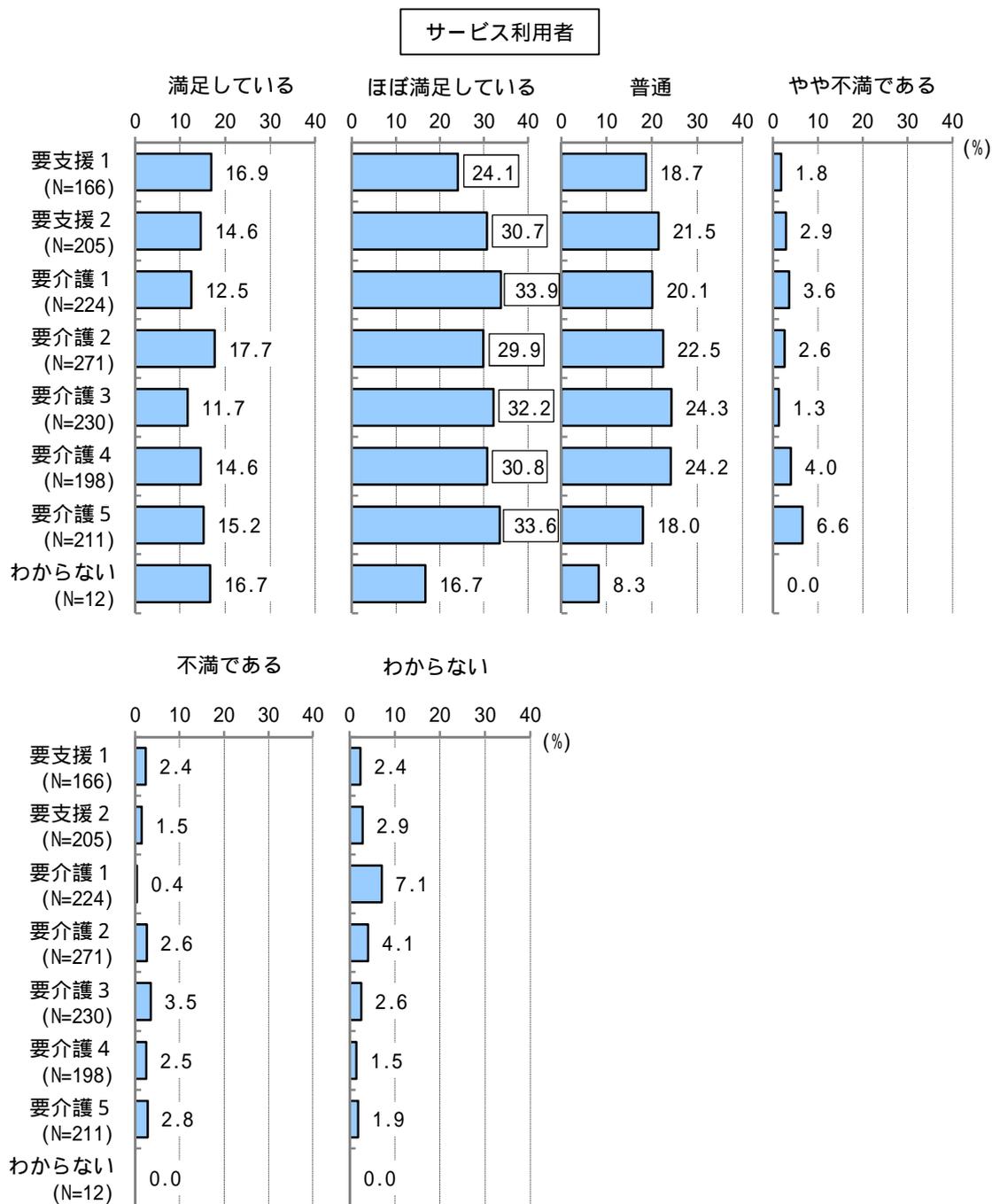


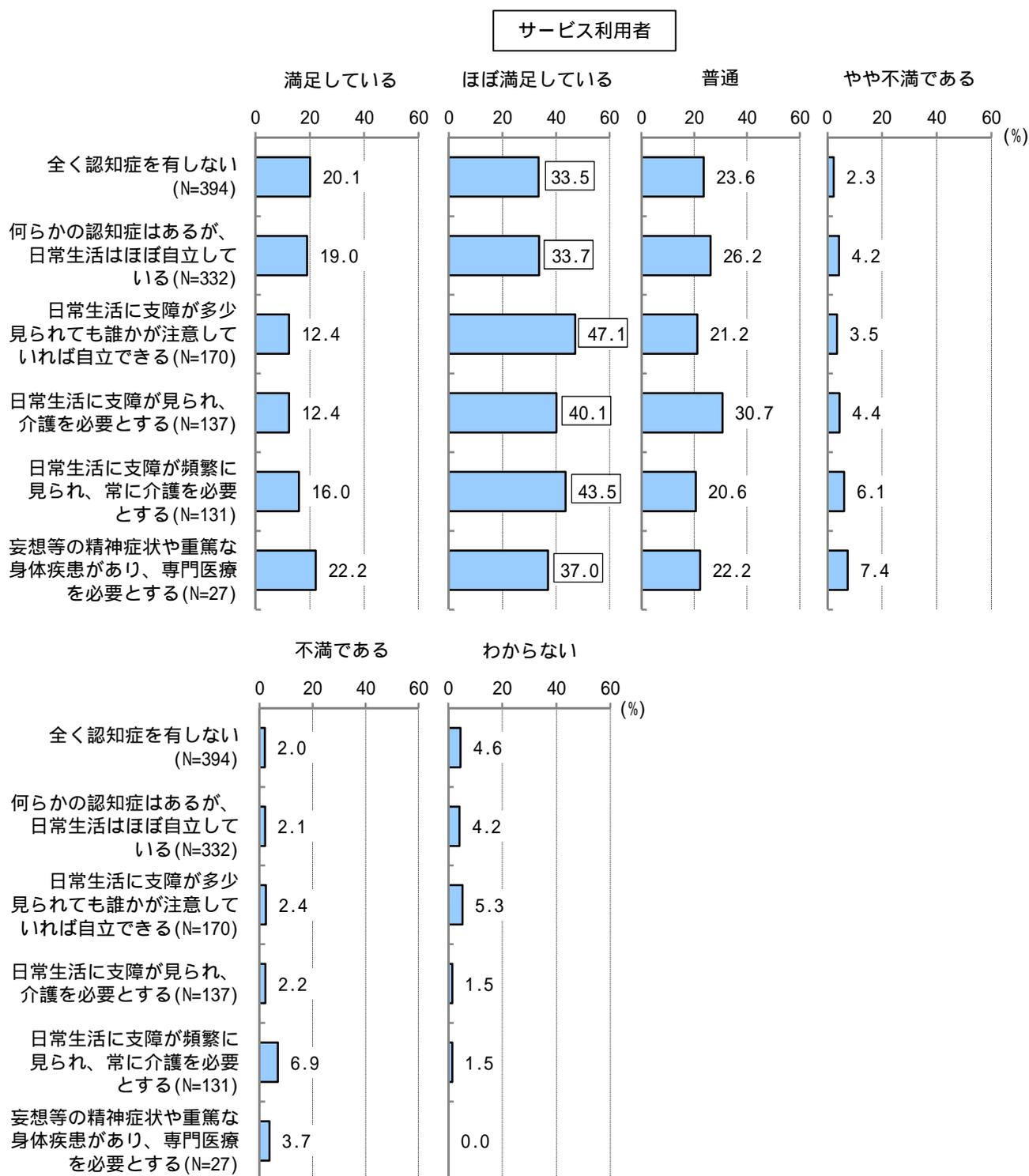
要介護度別で見ると、要介護度に関わらず「ほぼ満足している」が最も多くなっている。また、『満足』割合では各要介護度で4割台を占めており、要介護5が48.8%で最も高くなっている。(図26-a)

【図26-a 介護保険サービスについての介護者の満足度(要介護度別)】



本人の認知症の程度別でみると、認知症の程度に関わらず「ほぼ満足している」が最も多くなっている。また、『満足』割合では、いずれの程度も5割台となっている。(図26-b)

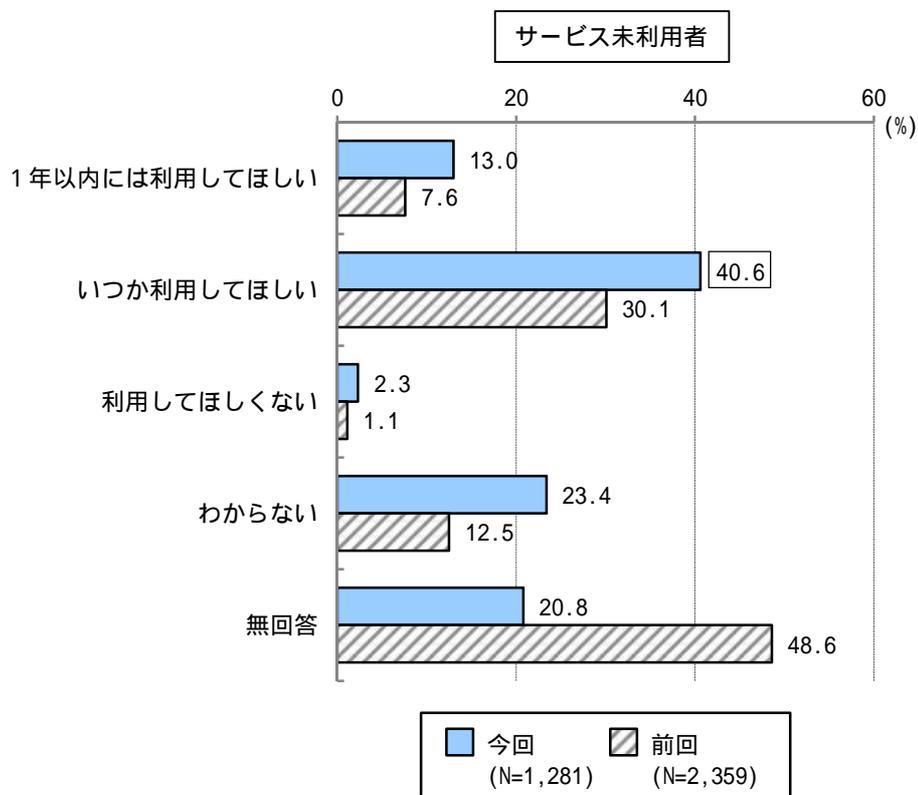
【図26-b 介護保険サービスについての介護者の満足度(本人の認知症の程度別)】



問24 介護保険サービスの利用希望（サービス未利用者）

今後、ご本人に介護保険サービスの利用をしてほしいですか。（はひとつ）

【図24 介護保険サービスの利用希望】



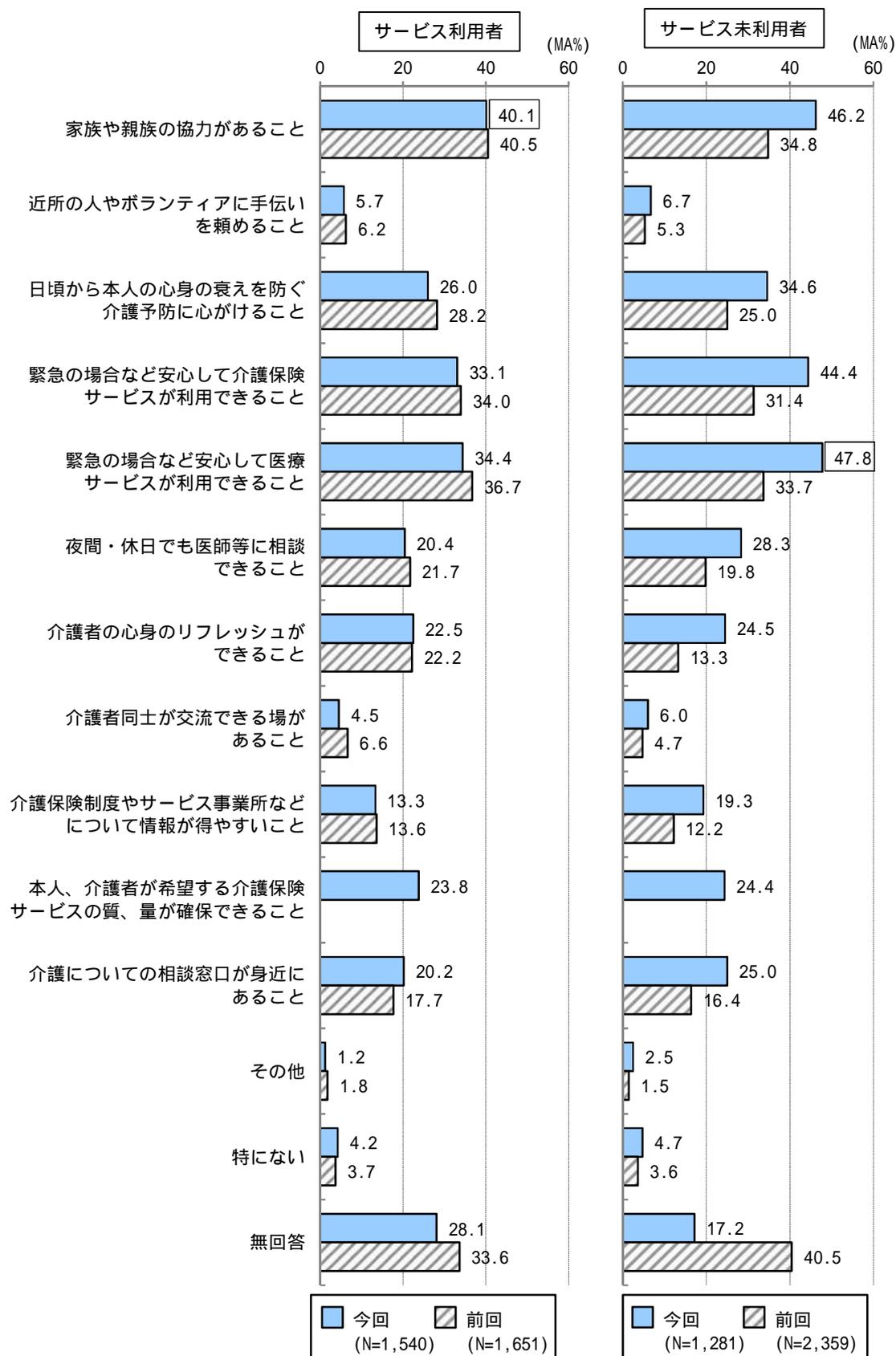
サービス未利用者の介護者に、今後、本人に介護保険サービスを利用してほしいかたずねると、「いつか利用してほしい」が40.6%で最も多く、次いで「わからない」が23.4%、「1年以内には利用してほしい」が13.0%となっている。

前回調査と比較すると、「1年以内には利用してほしい」が5.4ポイント増加、「いつか利用してほしい」が10.5ポイント増加している。（図24）

問27(25) 在宅での介護を続けるために重要なこと

主な介護者にとって、自宅での介護にあたって重要なことは何ですか。(はいいくつでも)

図27(25) 在宅での介護を続けるために重要なこと】



在宅での介護を続けるために重要なことについて、サービス利用者では、「家族や親族の協力があること」が40.1%で最も多く、次いで「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」が34.4%、「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」が33.1%、「日頃から本人の心身の衰えを防ぐ介護予防に心がけること」が26.0%、「本人、介護者が希望する介護保険サービスの質、量が確保できること」が23.8%となっている。一方、サービス未利用者では、「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」が47.8%で最も多く、次いで「家族や親族の協力があること」が46.2%、「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」が44.4%、「日頃から本人の心身の衰えを防ぐ介護予防に心がけること」が34.6%、「夜間・休日でも医師等に相談できること」が28.3%となっている。

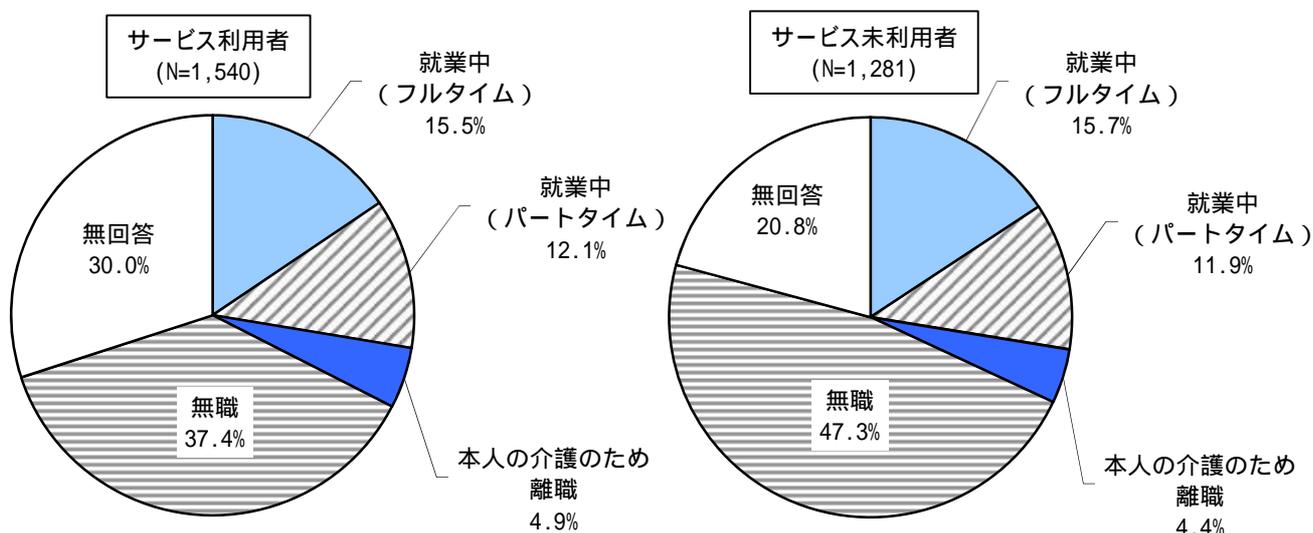
前回調査と比較すると、サービス利用者はほとんど変化はないが、サービス未利用者ではいずれの項目も増加しており、なかでも「緊急の場合など安心して医療サービスが利用できること」が14.1ポイント、「緊急の場合など安心して介護保険サービスが利用できること」が13.0ポイント、「家族や親族の協力があること」が11.4ポイント、「介護者の心身のリフレッシュができること」が11.2ポイントと、それぞれ10ポイント以上増加している。(図27(25))

(4) 介護離職に関する問題

問28(26) 介護者の就業状況

主な介護者の現在の就業状況についておたずねします。(はひとつ)

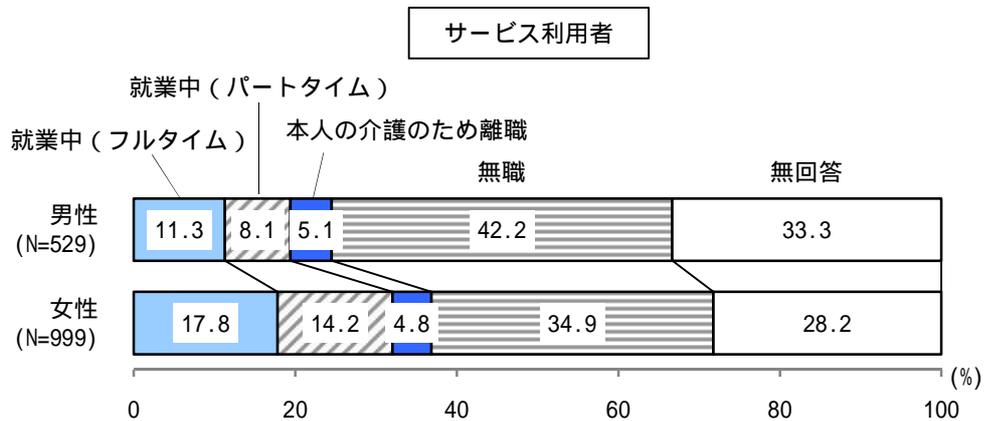
【図28(26) 介護者の就業状況】



介護者の就業状況について、サービス利用者・未利用者の両介護者とも「無職」が最も多く、次いで「就業中(フルタイム)」、続いて「就業中(パートタイム)」となっている。(図28(26))

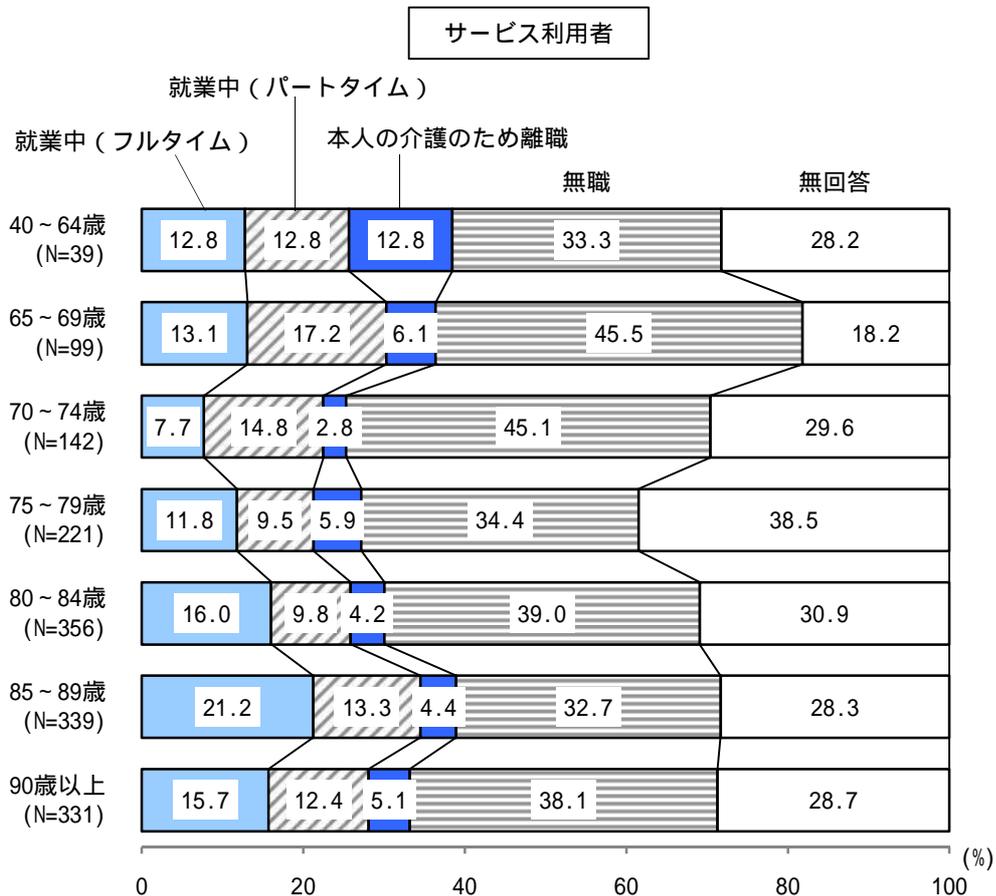
サービス利用者本人の性別でみると、本人の性別に関わらず「無職」が最も多くなっている。また、「就業者中（フルタイム）」と「就業者中（パートタイム）」を合わせた『就業者』割合では、男性の介護者が19.4%、女性の介護者は32.0%となっており、女性の介護者のほうが高くなっている。「本人の介護のため離職」は、本人の性別に関わらず、約5%となっている。（図28(26)-a）

【図28(26)-a 介護者の就業状況（本人の性別）】



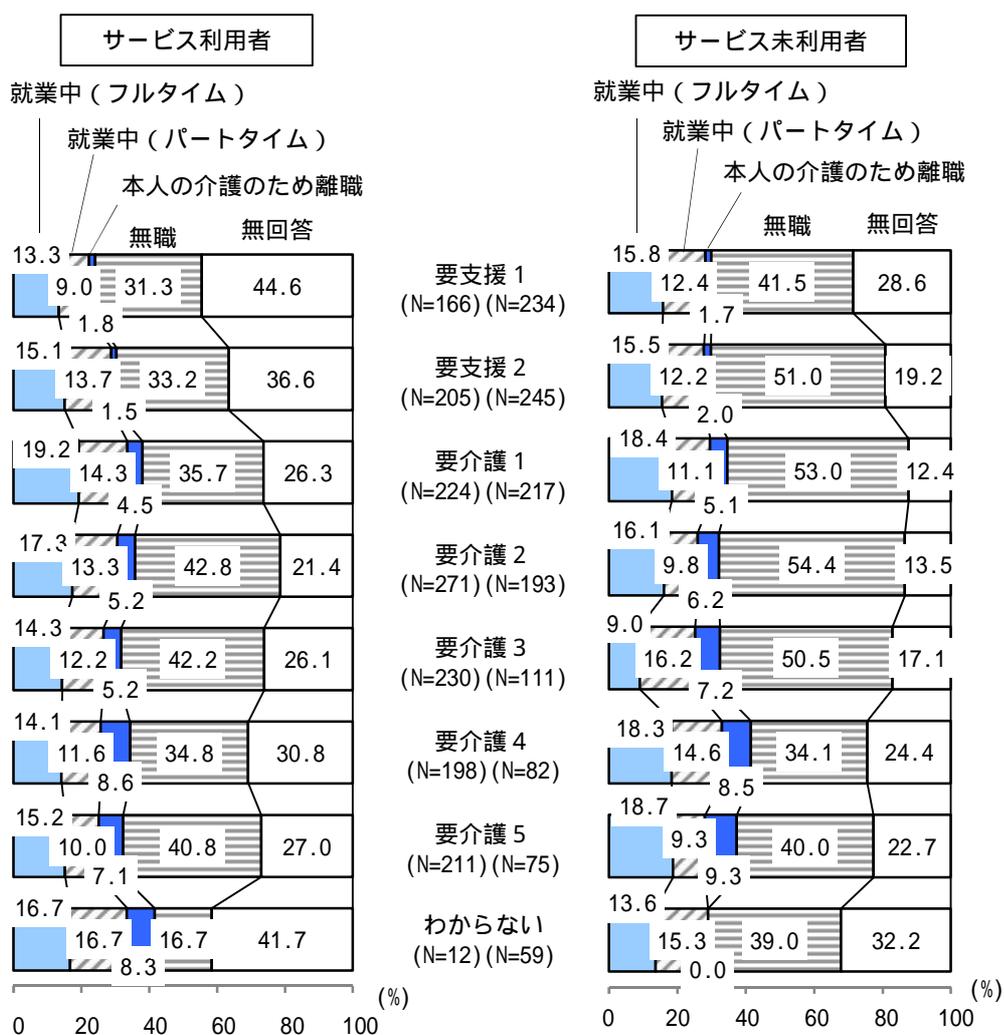
サービス利用者本人の年齢別でみると、本人の年齢に関わらず「無職」が最も多くなっている。また、『就業者』割合では、各年齢で2～3割台を占めており、なかでも85～89歳の介護者が34.5%で最も高く、次いで65～69歳の介護者が30.3%となっている。「本人の介護のため離職」は、40～64歳が12.8%で最も高くなっている。（図28(26)-b）

【図28(26)-b 介護者の就業状況（本人の年齢別）】



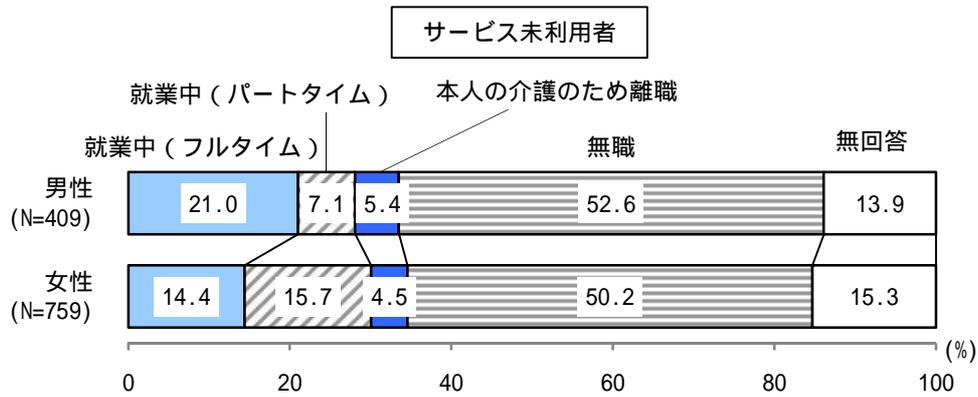
要介護度別で見ると、サービス利用者・未利用者の両介護者とも「無職」が、要介護度に関わらず最も多くなっている。また、『就業者』割合では、サービス利用者・未利用者の両介護者とも2～3割台となっており、サービス利用者は要介護1が33.5%、サービス未利用者は要介護4が32.9%で、それぞれ最も高くなっている。「本人の介護のため離職」は、サービス利用者・未利用者の両介護者とも、要支援1・2が2%以下であるのに対し、要介護では、要介護度が高くなるに従い、割合が高くなる傾向にある。(図28(26)-c)

【図28(26)-c 介護者の就業状況(要介護度別)】



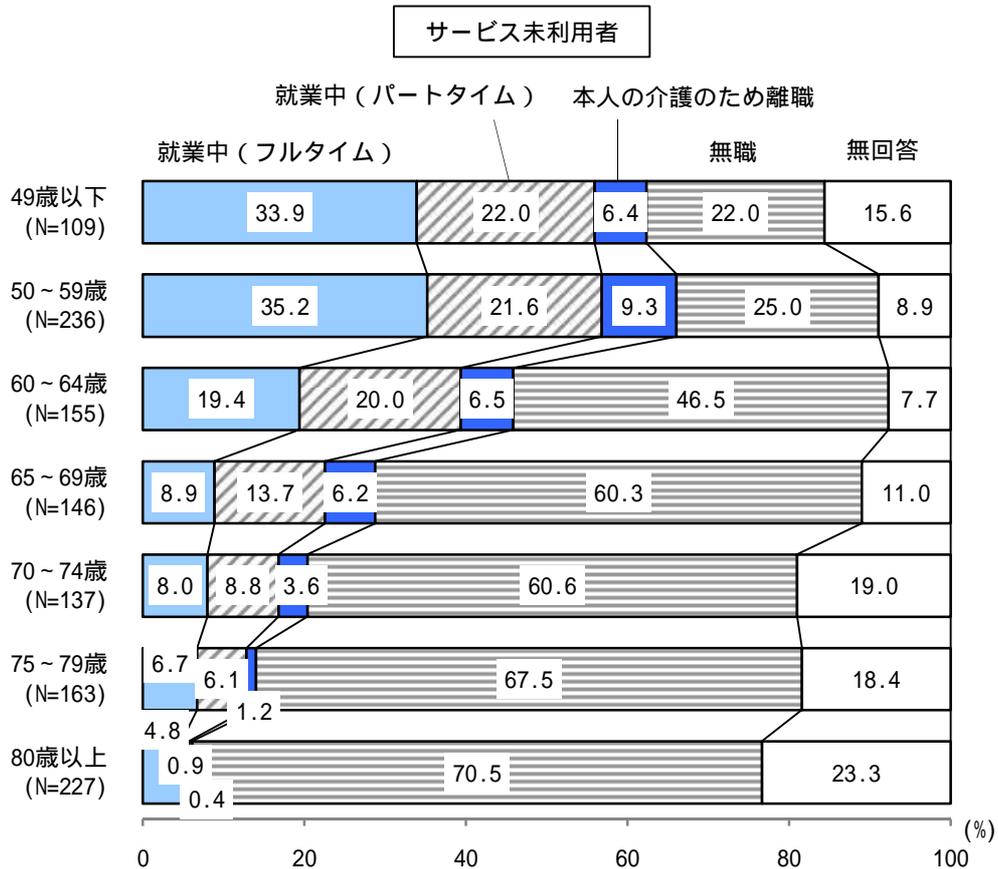
サービス未利用者の介護者の性別でみると、介護者の性別に関わらず「無職」が5割台を占めている。これに次いで、男性介護者は「就業者(フルタイム)」が21.0%、女性介護者は「就業者(パートタイム)」が15.7%と多くなっている。「本人の介護のため離職」は、介護者の性別に関わらず5%前後であるが、男性介護者の方がやや割合が高くなっている。(図28(26)-d)

【図28(26)-d 介護者の就業状況(介護者の性別)】



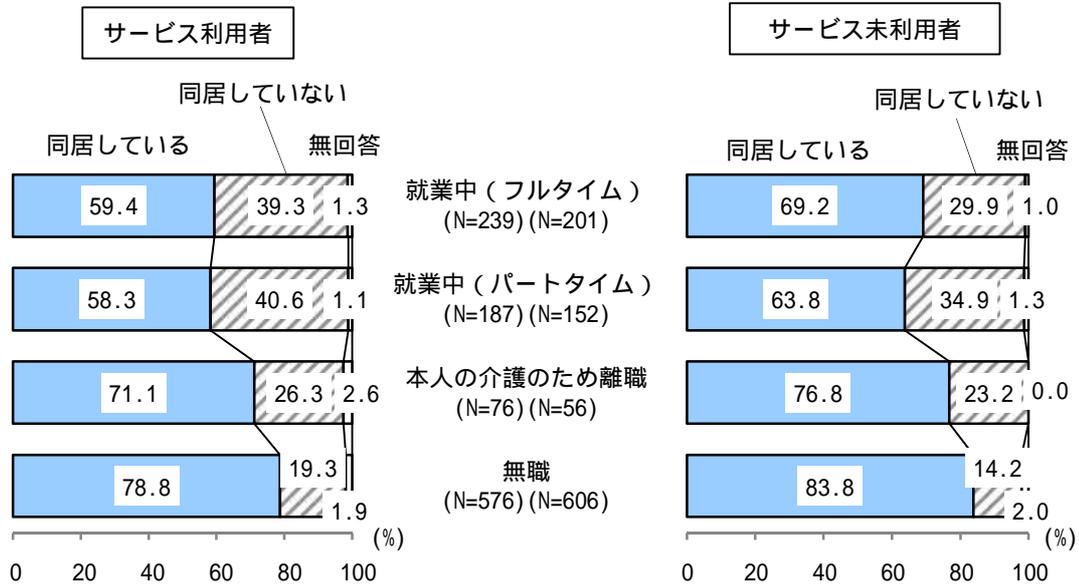
サービス未利用者の介護者の年齢別でみると、59歳以下の介護者は「就業者(フルタイム)」が3割台で最も多くなっており、60歳以上の介護者は「無職」が最も多くなっている。また、「就業者(パートタイム)」では、64歳以下の介護者で2割台を占めている。「本人の介護のため離職」は、50~59歳の介護者が9.3%で最も多く、60歳以上では、年齢が高くなるに従って減少している。(図28(26)-e)

【図28(26)-e 介護者の就業状況(介護者の年齢別)】



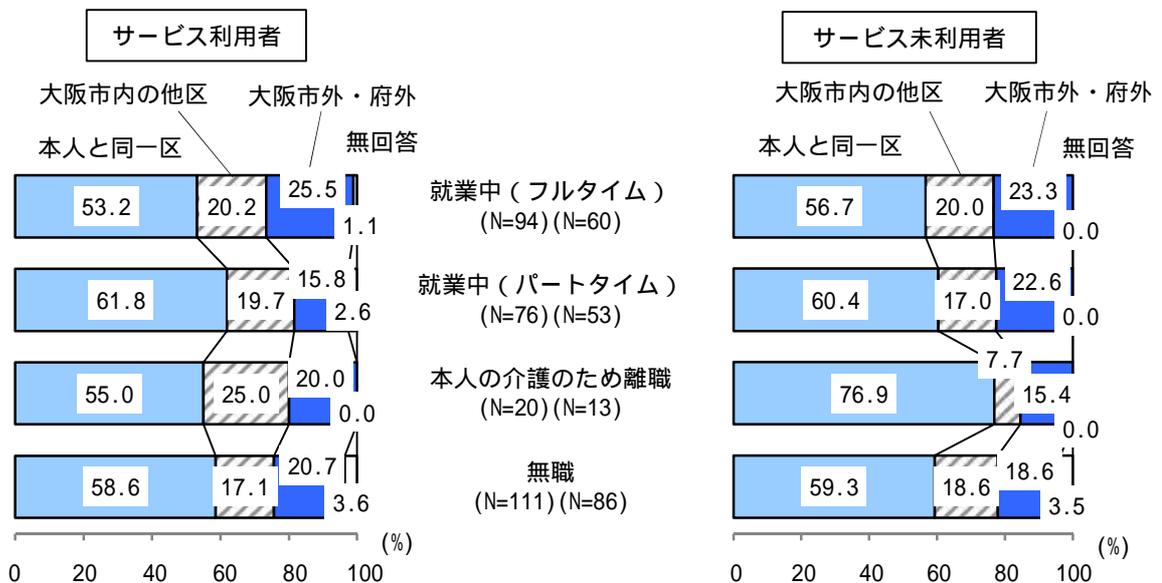
同居の有無別でみると、サービス利用者・未利用者の両介護者とも「同居している」が、就業状況に関わらず過半数を占めており、就業している介護者に比べ、就業していない介護者のほうが高くなっている。(図28(26)-f)

【図28(26)-f 介護者の就業状況(同居の有無別)】



同居していない介護者の居住区別でみると、サービス利用者・未利用者の両介護者とも「本人と同一区」が、就業状況に関わらず過半数を占めている。(図28(26)-g)

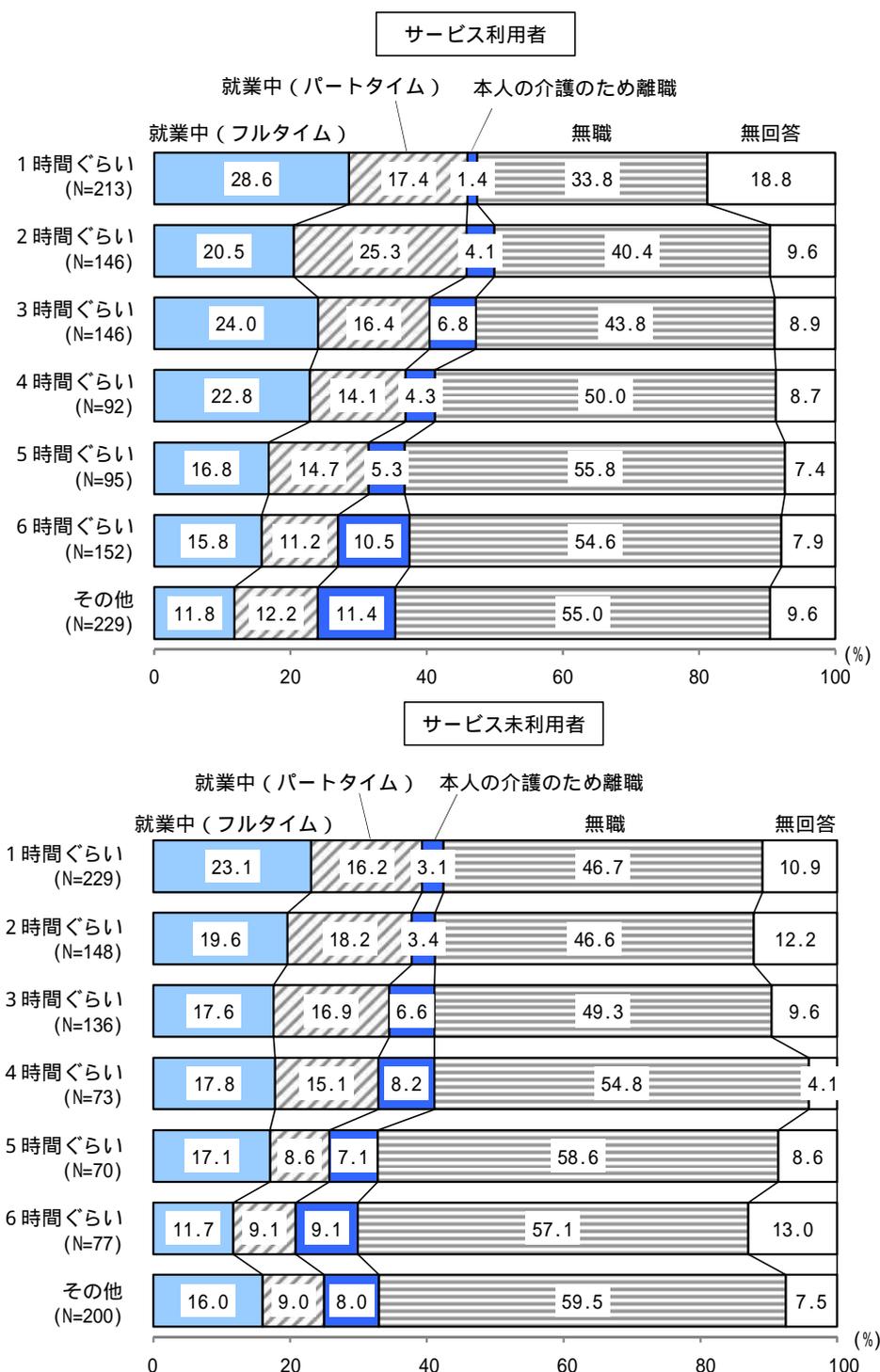
【図28(26)-g 介護者の就業状況(同居していない介護者の居住区別)】



1日平均の介護時間別でみると、サービス利用者の介護者は「本人の介護のため離職」では、“6時間ぐらい”の割合が10.5%で最も高く、「無職」では“5時間ぐらい”の割合が55.8%、次いで“6時間ぐらい”が54.6%で高くなっている。また、『就業者』割合では、1～3時間ぐらい介護している介護者は4割台を占めているが、介護時間が長くなるほど割合は低下している。

サービス未利用者は、「本人の介護のため離職」では、“6時間ぐらい”の割合が9.1%で最も高く、「無職」では“5時間ぐらい”の割合が58.6%で高くなっている。また、『就業者』割合では、“1時間ぐらい”の割合が39.3%で最も高いが、介護時間が長くなるほど割合は低下している。(図28(26)-h)

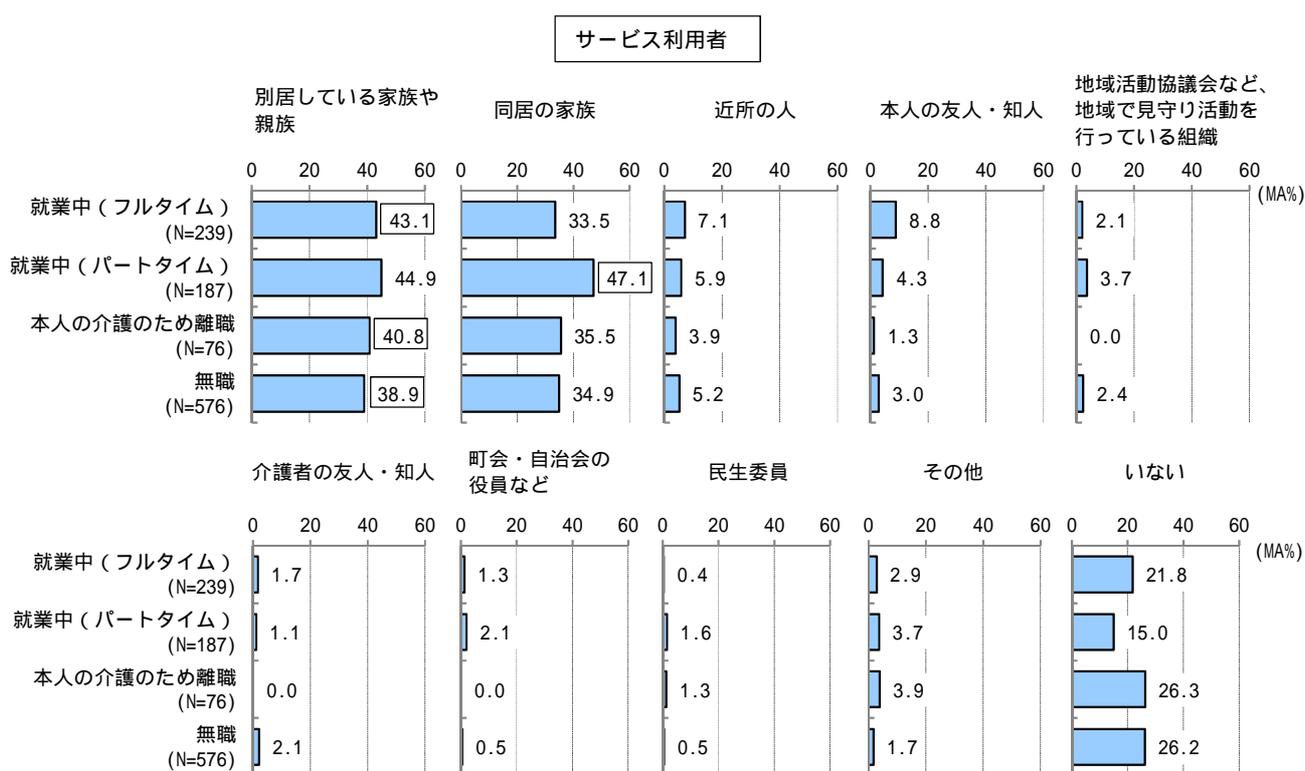
【図28(26)-h 介護者の就業状況(1日平均の介護時間別)】



介護保険サービス提供者以外で介護を手助けしてくれる方別でみると、サービス利用者は、「就業中(フルタイム)」と「本人の介護のため離職」、「無職」の各介護者では“別居している家族や親族”が最も多く、「就業中(パートタイム)」の介護者では“同居の家族”が47.1%で最も多くなっている。(図28(26)-i)

サービス未利用者では、「就業中(フルタイム)」と「無職」の各介護者は“別居している家族や親族”が最も多く、「就業中(フルタイム)」の介護者は45.8%、「無職」の介護者は39.8%となっている。「就業中(パートタイム)」の介護者は“同居の家族”が45.4%で最も多くなっている。「本人の介護のため離職」した介護者は、“同居の家族”と“いない”がともに35.7%で最も多くなっている。(図28(26)-i)

【図28(26)-i 介護者の就業状況(介護保険サービス提供者以外で介護を手助けしてくれる方別)】



【図28(26)-i 介護者の就業状況（介護保険サービス提供者以外で介護を手助けしてくれる方別）】

